

とき かね 時の鐘

6月10日は時の記念日です。671年に天智天皇が水時計で時をはかり、鐘やたいこで時を知らせた日を記念してこの日にきめられました。

しかし、ふつうの人が時を知ることができるようになったのは江戸時代になってからです。時計は高価でしたので、ふつうの人はもてませんでした。そこで、お城や町の中にある大きな鐘をついて、時を知らせました。富山市では1667年、高岡市では1804年、氷見市では1800年代の中ごろから始まりました。このような鐘は「時の鐘」とよばれていました。

この鐘は注意をひきつけるために、最初に3回鐘をつきます。これは「今から何時かをお知らせしますよ。」という合図です。その後、時刻におうじて、回数を変えて鐘をつきました。

鐘は1日に12回、あるいは24回つきました。



ゴーン

)))



明治34年から昭和14年までは、音のする花火で知ら

鐘の回数を聞いて、時を知った

せました。富山市ではそれを記念して、毎年6月10日の12時きっかりに神通川で、「ドン」と音がする花火が打ち上げられます。この時に富山市内の方は耳をすまして聞いてみてはいかがでしょうか。

(渡辺 誠)